

名人 内橋 良三(75) 岐阜県加茂郡富加町  
聞き手 青木 駿祐 東海高等学校1年  
平成18年取材

「森の名手・名人」とは、森に関わる仕事や地域生活に染み込んだ営みのうち、優れた技をもつその選を極め、他の模範となっている達人で、毎年、全国で約100名が選定されています。岐阜県においては、現在、23名の「森の名手・名人」がいます。

この「森の名手・名人」の聞き書き甲子園に「参加した高校生が「聞き書き取材」をしたものの中から誌面の関係上要点を抜粋したものです。なお年齢、住所、学年は取材当時のものです。」

# この仕事を始めて六十年

内橋良三氏を偲んで

樵・杣師

▼右が内橋良三さん



## 1. ぎっかけ

内橋良三、七十五歳、杣師をしています。この仕事始めてちょうど六十年になる。ぎっかけは、木を伐ることが達者な人に憧れて、昭和二十一年、国民学校高等科二年のときに、鍋谷さんという親方について修行に出たんだよ。俺が修行に入って四年間は、刃物研ぎばかりだった。大体二十歳ぐらいになって、やっとこさ、木を伐らしてもらえるようになって。親方と離れて、京都、広島、舞鶴、能登半島などあちこち歩いた。この岐阜県に来てからでも、まだ滋賀県とか能登の方へ働きに行ったね。

## 2. 杣師

昔から、木を伐る職人を杣師と言ったの。伐つた木を引き割って加工して、乾燥させる人のことを木挽き。のこぎりを使わずに、斧だけで木を伐る人のことを木こりと言った。とびを使う



平成14年雇用対策研修(かき木)の処理の実習

## 3. 安全祈願

山の神々つてのは、女の神様ばかりだから女の人が山に入るのを嫌って、山は女人禁制だった。それで山仕事をする男たちは、お酒が大好きで、お払いするのにお神酒で労をねぎらった。神主さんに頼んで、木を伐る前に安全祈願をして、お祭りをした。直会として、ほんの盃一杯のお酒を飲む。それで、気持ちを引き締めてもつた。

## 4. 木を伐る(チェーンソー)

受け口切るときは、木とチェーンソーを結んで、直角に立つ。受け口の大きさは、伐る木の直径の四分の一から三分の一くらい。追い口は、受け口の三分の二ぐらいの高さで伐るようにする。追い口は、受け口よりあんまり上すぎちゃだめだよ。倒れていけないから、自分で倒れ



平成14年基幹労働者研修(チェーンソーの目立ての実習)

## 8 役目

時代の流れで、機械を頼る世の中になった。機械を動かせる人材を育てればいい風潮になっている。ボタンを押して機械を動かすなら今の若い人たちは半日で一人前になる。テレレグームみたいだから。しかし、現場によつては索道でやるほうがいい場合がある。技術がいるけど。

## 5. 杣のネヨキ

そこで鉈を下げ振りにする。鉈の紐がどう触れているか、傾き具合を見る。木の重心が寄っている方向に倒すと、加速して傷む。傷むと製材するときび割れる。だから重心の反対側に楔で起こして倒す。こうすると、ショックがない。これが伐倒するときの原則。

## 6. 確認点検

まず、朝に皆で段取りを決める。それで準備体操をして、円陣組んで、大きな声で二種類の五原則を言う。

木を伐るときはやつてはいけない、林業五原則つてのが定められている。かけられた木を伐つてはいけない。かかっている木の元を伐つてはいけない。細い木だから、肩で担いでどかすのはだめ。かかっている木に別の木をぶつけて倒すのもだめ。かかっている木の枝を取り払ってもだめ。でも昔は、こういう事をできるのが杣の勲章だった。技術があったからね。今の人たちは伐倒が思うようにいかないから、禁じられた。

木を伐るときは絶対やらなきゃいけない五原則もある。左右確認、上下確認、足元確認、退避場確認、伐倒方向確認。規則に反することをするのは、理屈に合わない。だから、危ないに決まっている。

## 7. 安全

安全第一、安全のことをくどくどいらい毎朝毎日教える。怪我をしたら絶対あかんから。一人一人体で覚えるよう指導してるの。めつたにないけど、生徒を大声でしかることもある。その時、その人は何で自分がしかられたのか、わからないみたい。けど二十年ぐらい経つて、「ああ、こういうことだったんだな。」ってわかるようになる。そういうものなの。



平成14年基幹労働者研修(雪害木処理の実習)

【森の名手・名人編集担当  
(株)岐阜県緑化推進委員会 佐藤正吉】

## 内橋良三氏を偲んで

「ワッハッハー」という大きな声。そして大きな手、大きな顔、大きな体から溢れ出る温厚で気さくな性格。一度お会いすると、そのカリスマ的な魅力に惹かれてしまう。そのような人でした。実戦で培われた経験と技術は、名手・名人の域を遥かに超え、技を身につけようとして内橋さんの元へ集まった研修生にとっては神様のように見えたことでしょう。岐阜県の多くの林業の担い手を育て上げられた人でした。

私が初めて内橋さんにお会いしたのは、森林公社の林業労働力確保支援センターで担い手育成を担当したときでした。一番基本となる伐木造材と架線集材の講師は内橋さんおいては他にいないと、家まで訪ねて行きました。当時内橋さんは「わしは、もう70を超えてんで引退したい。」と試みていたのを、内橋さんと奥さんにすがるようにお願いしたことを思い出します。「わざわざ頼みに来てくれたのに、断るわけにもいかんよ」と引き受けて下さいました。頼まれるといやとはいえない情に熱い人でした。

奥さんを亡くされてからわずか一年足らずの今年の2月、後を追うように長い眠りにつかれました。木を愛し、山を愛し享年78歳。謹んでご冥福をお祈りいたします。…合掌

## 名人 内橋良三さんのプロフィール

- 生年月日…昭和7年1月22日生まれ
- 出身地…富山県
- 仕事内容…基幹林業労働者講習の講師に従事・緑の雇用担い手対策研修、また、林業労働災害防止協会の技術師として、岐阜県下各地で活躍。さらに岐阜県だけでなく、広島・京都・日本海方面において幅広い活動を行ってきた。

※原本は長文のため、索道張り、刃物、木を伐る(斧)、三編伐り、とび、修繕、木馬、流送の項目は省略しました。



平成14年基幹林業労働者研修(ワイヤースプライスの実習)